

①KUR(Kyoto University Research Reactor)

2014年5月26日から施設定期検査期間となり、この期間中に新規規制基準（原子力規制委員会により2013年12月18日付けで施行された試験研究用等原子炉施設の新規制基準。）に対応するため、運転を停止しておりましたが、2017年8月25日付けで施設定期検査の合格証が交付され、翌週の8月29日より3年3ヵ月ぶりに利用運転を開始いたしました。昨年度の利用運転は2018年2月15日で終了して、2月19日から施設定期検査期間となっております。現時点では8月21日から利用運転を開始する予定です。

なお、昨年度のホウ素中性子捕捉療法（いわゆる癌治療のひとつ）による医療照射の実施件数は37件となっております。

②KUCA(Kyoto University Critical Assembly)

2014年3月10日から施設定期検査期間となり、KURと同様にこの期間中に新規規制基準に対応するため、運転を停止しておりましたが、2017年6月20日付けで施設定期検査の合格証が交付され、翌日より利用運転を開始いたしました。昨年度の利用運転は2018年3月9日で終了して、3月12日から施設定期検査期間となりました。7月4日付けで施設定期検査の合格証が交付され、7月6日から今年度の利用運転を開始しました。

なお、昨年度のKUCAを用いた学生実験には全国から約150名の大学院生が参加しました、

京都大学における事故等事案について

①KUCAスタックダストモニタのろ紙送りの不調（2017年8月25日）

KUCAのスタック（排気口）に設置されているダストモニタのろ紙の定期交換を実施しようとしたところ、前回（4ヶ月前）に交換したろ紙がほとんど動いていないことが判明しました。別の複数のモニタの指示値には異常は無かったこと等から、この間の運転中に放射能漏れや周辺環境への影響はなかったことは確認していますが、放射線管理機器を正常に維持するための点検が不十分であったことから、第2四半期分の保安検査にて「保安規定違反（監視）」と判定されました。

②重水熱中性子実験設備からの重水漏えいについて（2017年9月20日）

2017年9月20日に重水熱中性子実験設備のトリチウムモニタの警報が発生しました。本事象の原因である配管のフランジ接続の施工手順及びアルミフランジの補修方法・防蝕対策を見直した上で、漏水箇所を補修と復旧作業を完了し、10月24日からKURの利用運転を再開しました。今回の漏水場所は、放射線管理区域内であり、放射性物質の濃度も法令に定められる濃度限度を十分に下回っていることを確認しており、本事象による人への被ばく及び周辺環境への影響はありませんでした。

③ KURの自動停止について（2018年1月23日）

KURが出力1,000kWで運転中に「交流電源の異常」信号により自動停止しました。その際、KURは安全に停止し、炉室内外の放射線量も通常値で問題ありませんでした。その後の調査により、自動停止の原因はスクラム信号を発する回路内のリレーの誤作動であることが判明しました。そのため、1月26日に当該スクラムに関係するすべてのリレーを交換し、スクラム作動確認を行った結果、正常に復旧したことが確認できたことから、原子力規制庁との面談にて確認を受けた後、1月30日からKURの利用運転を再開しました。なお、再発防止策については、今回の施設定期検査の中で検査計画の見直し、特別点検の追加等に対応する予定です。

住民広報について

平成30年度 一般公開 平成30年4月7日（土曜日）開催 （226名）
桜公開 平成30年4月8日（日曜日）開催 （197名）

見学施設：原子炉棟、イノベーションリサーチラボラトリ、廃棄物処理棟

図書棟会議室：当研究所で開発された、福島第一原子力発電所の事故による広範囲の放射能汚染に対し放射線マッピングを効率的・継続的にできるGPS連動型放射線自動計測システムKURAMAとその改良型であるKURAMA-IIに関する紹介

図書棟ロビー：研究用原子炉の模型と施設紹介パネルの展示ならびに、研究所紹介ビデオの上映

事務棟会議室：実験教室「霧箱実験（放射線の足跡を見る実験）」、「放射線で宝探し（線源探し）」、「人エイクラ作り」

今後ともこのような機会を通じて、地域住民の方々をはじめとした多くの方々に、原子力とそれを支える基礎的な科学への理解の場を提供して、当研究所における研究・教育活動についてご理解とご協力が得られるように努力いたします。

最後に、今回の一般公開・桜公開の開催にあたりご協力いただきました皆様方に感謝の意を表します。